

## 尿道閉塞に伴い膀胱瘻カテーテルで維持管理したピグミーゴートの1症例について

野村美佳

(横浜市立野毛山動物園)

ズーラシアで飼育していたピグミーゴート (*Capra hircus*) No.1 雄のチョコは、2021年11月に尿道閉塞を発症し膀胱瘻バルーンカテーテル設置術を実施した。膀胱瘻バルーンカテーテル設置術とは腹壁から直接膀胱内にバルーンカテーテルを挿入し留置、尿を排泄させる方法である。この処置により尿道とは異なる排泄経路を確保することができる。本来であれば、閉塞の解除とともにカテーテルを抜去することが理想だが、再発を繰り返し自然排尿が困難となってしまったため、バルーンカテーテルを継続的に留置し維持管理した。炎症性物質や炭酸カルシウムがカテーテル内腔に詰まり定期的な交換が必要となったが、問題なく維持することができた。この個体は、この疾患とは別の原因で死亡してしまったが、死亡するまでの約3年半維持したので、その経過を報告する。